

社会资本総合整備計画

全国都市緑化フェア開催に関連する 都市公園の整備

令和7年11月13日

令和7年度 川崎市公共事業評価審査委員会

目次

- 社会資本整備計画の概要 P 3~7
- 事業概要
 - ①都市公園事業（富士見公園） P 8~9
 - ②都市公園事業（夢見ヶ崎公園） P 10~12
 - ③全国都市緑化かわさきフェア P 13
- 要素事業の進捗状況及び評価指標の達成状況 P 14
- 事業効果の発現状況 P 15~18
- 総合的な所見 P 19

社会资本総合整備計画の概要

【計画の背景】

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いある都市づくりに寄与するもので、昭和58年から毎年、全国を巡回して開催されている花と緑の祭典。

みどりには、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの機能や効果のほか、自然環境教育、中心市街地活性化、観光、健康福祉、子育て・情報交換等の場としての多様なポテンシャルがある。全国都市緑化かわさきフェアは、みどりの機能と効果を最大限活用し、市民、企業、行政などがみどりのまちづくりに取り組むきっかけとなるよう、市制100周年の象徴的事業として開催。

＜かわさきフェア開催の意義＞

- 1 市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること
- 2 みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること
- 3 市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

社会資本総合整備計画の概要

第41回全国都市緑化かわさきフェアの開催概要

1 名称・愛称

<名称> 第41回全国都市緑化かわさきフェア

<愛称> 「Green For All KAWASAKI 2024」

シンボルマーク



Green For All
KAWASAKI
2024

2 主催者等

提唱：国土交通省

主催者：川崎市、公益財団法人都市緑化機構

実施主体：川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化
かわさきフェア実行委員会

3 開催期間

令和6年10月19日(土)～11月17日(日) (30日間)

令和7年 3月22日(土)～ 4月13日(日) (23日間)

4 会場

コア会場

：富士見公園、等々力緑地、生田緑地

コア会場周辺エリア及びまちなかみどりスポット

：公園緑地、駅前広場、道路、河川、庁舎、商業施設など

5 想定来場者数・概算事業費

想定来場者数 160万人

6 統一主題(テーマ)

「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」

みどりをツールに、人と人、人と暮らしが緩やかにつながっていく様子を、区の数である7枚の葉を重ね、市民の活動(アクション)がさらに広がっていくイメージを、多彩な色でロゴ全体を花に見立てて表現しています。

社会资本総合整備計画の概要

全国都市緑化かわさきフェア

秋 2024年10月19日(土)~11月17日(日)

春 2025年3月22日(土)~4月13日(日)

3つのコア会場である、富士見公園、等々力緑地、生田緑地を中心に、南部から北部まで、地域的魅力を発信します！メインガーデンに加え、ガーデンコンテスト、様々なグルメ、コンサート、オリジナルグッズの販売などを行います！ぜひ各会場にお越しください！！

生田緑地

川崎市多摩区柄形7-1-4
[アクセス]向ヶ丘遊園駅または登戸駅から徒歩

「歴史・文化」
×
みどり

ばら苑特別展示(秋)

色鮮やかに咲く625品種
約2,900株の秋のバラをお
楽しみいただけます。
360度の緑のパノラマと
清涼な空気を感じる「秘密
の花園」へお越しください。

メタセコイア林の特別演出

高さ30mを超えるメタセ
コイアの木は生田緑地の
人気スポットです。
霧や藍染めの布で包ま
れた幻想的な空間をお
楽しみいただけます。

自然を知って好きになる展示

生田緑地内の植物を細部
まで精密に描いた植物画
(ボタニカルアート)の展示
や生田緑地で活躍する様々
な団体の紹介、ワークショッ
プなどが体験できます。

等々力緑地

川崎市中原区等々力1
[アクセス]武蔵小杉駅からバス

「体験・体感」
×
みどり

メインガーデン「Active Garden」

見て、嗅いで、触って、
聞いて、味わう、“緑”
を楽しむガーデンで
す。大学生や企業の
皆さんと一緒に作り
上げました。

ロングボーダーガーデン

池のほとりに約100m
の花壇が出来上がり、秋
と春には、約4万5千株
もの花々が咲き誇ります。
「花カフェ」で貰った
お茶を飲みながらのん
びり眺めてみませんか。

自然体験の森

森の中で『木のブラン
コ』で揺れてみたり、
薪割りや火起こしの
体験をしてみたり、
大人も子どももワク
ワクする体験が、みな
さんを待っています。

富士見公園

川崎市川崎区富士見1丁目・2丁目地内
[アクセス]川崎駅から徒歩またはバス

「多様性」
×
みどり

メインガーデン カラーズ フューチャー ガーデン 「Colors, Future Garden」

工場モチーフが緑に包まれていき、
波紋のように広がる幸福の花畠が
出現します。
壮大なスケールの大花壇をゆっくり
と時間をかけてお楽しみください。

垂直花壇

川崎富士見球技場の壁面に、最新
技術を用いて、最大高さ8mの緑化
展示を行います。
市内高校生がデザインした壁面緑化
もぜひご覧ください。

出展花壇

ハンギングバスケットやコンテナ
ガーデンのコンテスト作品のほか、
みどりを身近に取り入れた新しい
ライフスタイルの庭園が並びます。

5

社会资本総合整備計画の概要

【計画の名称】

「全国都市緑化フェア開催に関する都市公園の整備」

【計画の期間】 令和4年度～令和6年度

【計画の目標】

令和6年度に本市で開催予定の**全国都市緑化フェアの開催**に向け、両公園の整備を進め、コミュニティ形成の拠点や防災、脱炭素化施策の推進など、行政課題の解決に向け、みどり^(※)が持つ多機能性を活用したまちづくりを推進し、フェア終了後においても、まちの拠点となるような公園づくりを目指す。

※「みどり」の考え方：生物多様性がもたらす「基盤サービス」（光合成、栄養循環、水や空気の浄化）、「供給サービス」（食料や資源の供給）、「調整サービス」（暑熱化の緩和や災害軽減）、「文化的サービス」（精神充足、レクリエーション）の4つの「生態系サービス」も含めた多様な機能の効果を「みどり」として捉えることとしている。

【対象となる公園の概要】

富士見公園は、昭和11年に都市計画決定され、周辺には様々な市民利用施設が集積しており、富士見公園を中心とした周辺一帯が市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっている。

夢見ヶ崎公園は、昭和47年に動物展示を開始し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる市内唯一の動物公園として、市民や地域から愛され続けている。

（都市計画決定：昭和32年）

社会資本総合整備計画の概要

要素事業

基幹事業

単位 (千円)

事業名	事業内容				計画事業費	
		R4	R5	R6	当初	評価時
A12-001	都市公園事業（富士見公園）	施設整備 11.8ha			4,948,000	4,948,000
A12-002	都市公園事業（夢見ヶ崎公園）	施設整備			506,000	506,000
小計					5,454,000	5,454,000

効果促進事業

C12-001	効果促進事業（富士見公園）	計画策定、会場準備等			625,000	625,000
合計					6,079,000	6,079,000

計画の成果目標（定量的指標）

定義： **全国都市緑化かわさきフェアの市民認知度**

算定式：全国都市緑化かわさきフェアを知っている人／市民アンケートの回答者

設定理由：全国都市緑化かわさきフェアを契機に再編整備後の公園に来場する機会を創り出し、みどりの効果を体感してもらうことで、かわさきフェア終了後の継続的な活用につながるため

指標名	当初現況値	最終目標値
全国都市緑化かわさきフェアの市民認知度	5% (令和3年11月)	15% (令和6年度)

課題

富士見公園は、**公園本来の広場（子どもが遊べる広場等）**が少なく、**施設の老朽化などの課題**もあり、都心の総合公園としての機能回復が求められている。

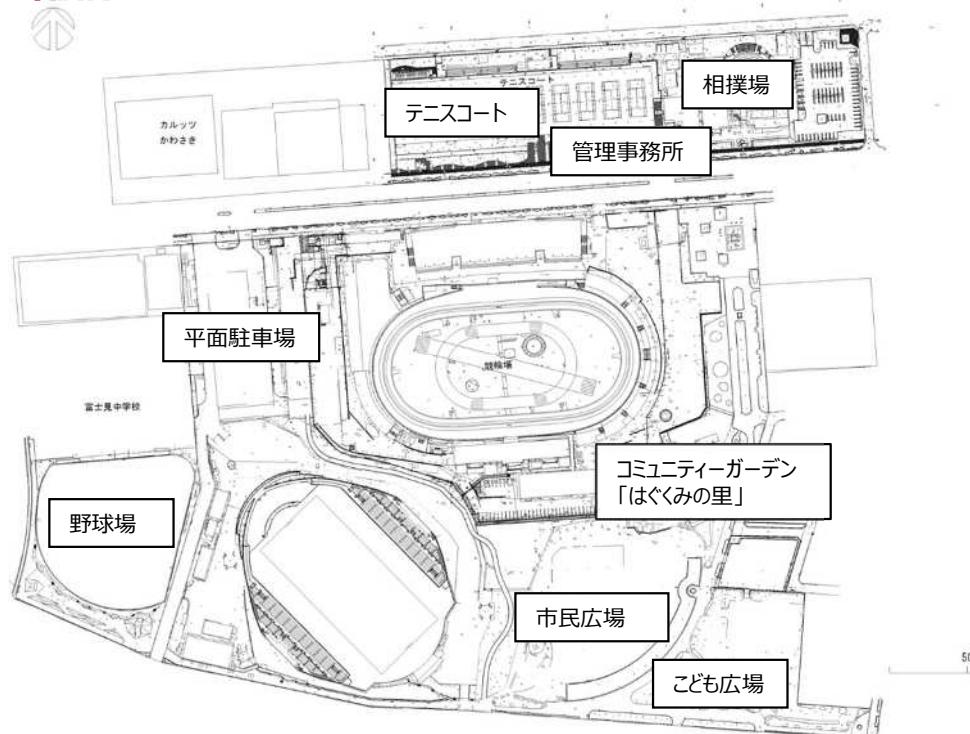
整備内容

管理事務所の建て替え、パークセンターの新設、立体駐車場の新設、各種広場の新設 等

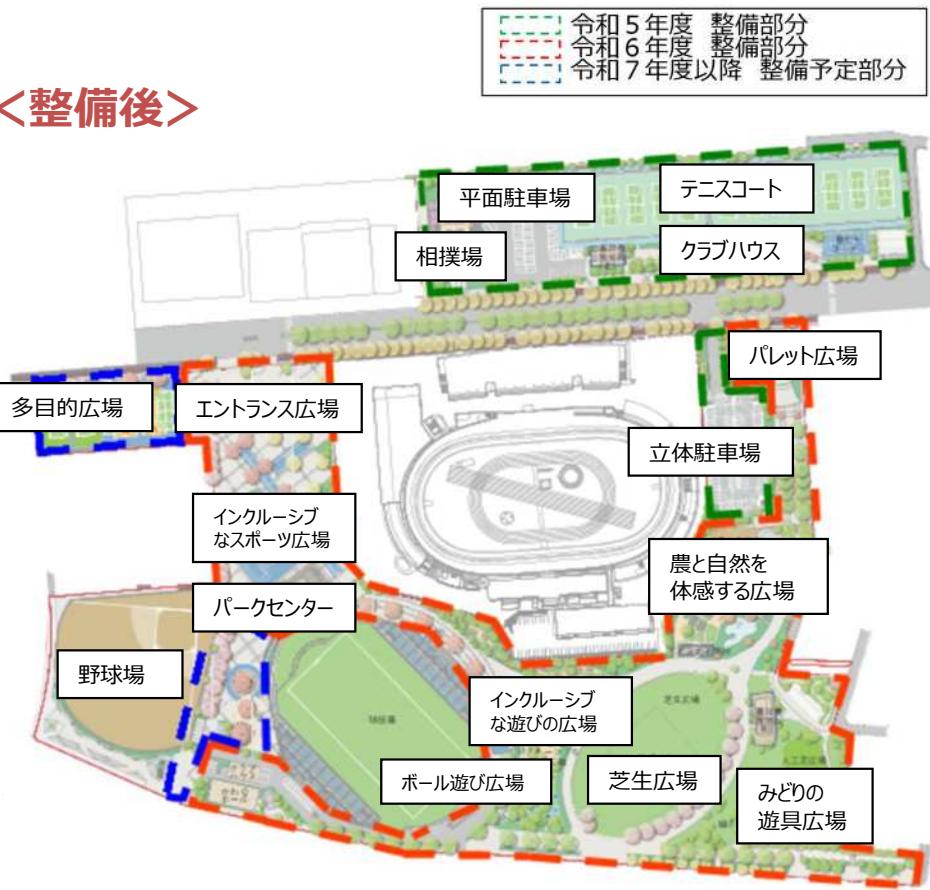
※PFI手法に基づき再編整備の取組を進めている

【事業概要図】

＜整備前＞



＜整備後＞



※当該整備計画は終了していますが、別の整備計画にて整備工事を継続中（上記青枠箇所）

整備前(主な施設)



旧市民広場



旧管理事務所

整備後(主な施設)



広場全体



クラブハウス



パークセンター

整備による効果

様々な広場等の整備や施設の老朽化の解消により、コミュニティ形成機能や防災機能等が充実した。

- コミュニティ形成**…各広場の整備によって、子どもが遊具やビオトープなどに集まって遊んだり、多様な世代が散歩や健康づくりに利用するなど、子どもから大人まで様々な世代間交流が促進されていることから、コミュニティ形成に寄与している。
- 防災**…立体駐車場を津波避難施設に指定、防災パーゴラ（災害時の救護室）、かまどベンチ（災害時の炊き出しに活用）を整備。
- 脱炭素化の推進**…施設の木造木質化、太陽光発電システムの導入。

コミュニティ形成機能



インクルーシブな遊びの広場



みどりの遊具広場

ビオトープ
※農と自然を体感する広場

脱炭素化の推進



クラブハウス（木造・木質化）

防災機能



防災パーゴラ



かまどベンチ



立体駐車場

アメニティ施設(太陽光パネル)
※公園南側エリア

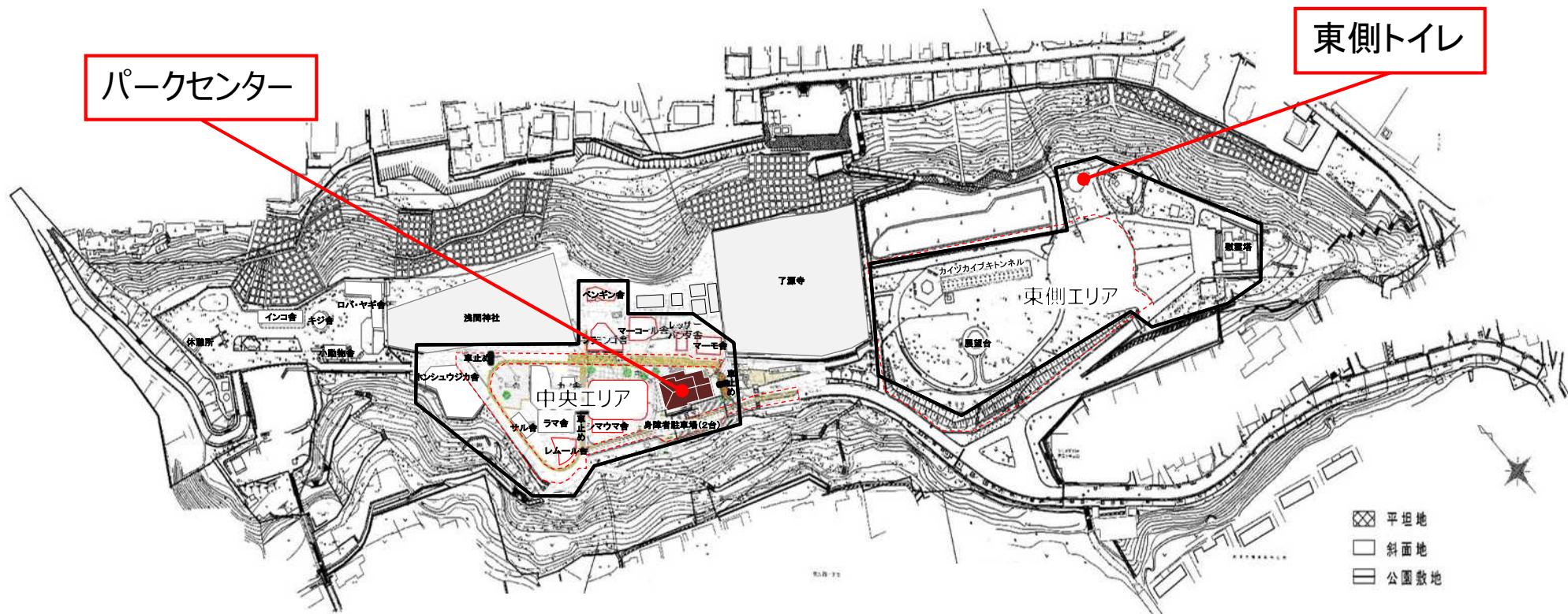
課題

・開設から70年以上経過し、公園施設の老朽化への対応や、市民や来園者の利便性の向上が求められている。

整備内容

- ・パークセンターの建て替え（多目的室やベビールームを新設）
- ・東側トイレの建て替え（多機能トイレ等の新設）

【事業概要図】



整備前

パークセンター（旧管理事務所）



外観



レクチャールーム

東側トイレ



外観

整備後



外観



多目的室



外観



多機能トイレ

整備による効果

多目的室、ベビールームの新設による、利便性の向上、コミュニティ形成の場の創出

整備による効果

全国都市緑化かわさきフェアまちなかみどりスポットとしての取組

全国都市緑化かわさきフェアにおける共催連携会場（まちなかみどりスポット※）としてオープニングセレモニーやフェアスタンプラリー等を実施

※まちなかみどりスポット：日常の活動や取組をフェアを通じて発信し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成する場所

パークセンターオープニングイベント



全国都市緑化かわさきフェア期間内の取組



市民活動の場、交流・学習の場の創出

地域の意見・情報交換の機会の創出（ゆめみらい交流会等）や講演会の開催など、コミュニティ形成の場として活用



全国都市緑化かわさきフェア（富士見公園会場）

効果促進事業について

富士見公園の再整備によって生み出される効果を最大化し、より広く、より効果的に波及させるため、効果促進事業として、全国都市緑化かわさきフェアを開催し、おもてなしのフラワーゲート、工業都市としての発展の歴史とみどり豊かな環境先進都市への未来を表現した工場モチーフとみどりのゾーン、最先端の緑化技術を活用した壁面緑化やグリーンインフラの解説、収穫体験などが可能な農と自然のガーデン、子どもたちが自由に楽しめる庭あそびなど、幅広い年代をターゲットに展示を行ったほか、公式行事や庭園出展コンテストも開催した。

効果

富士見公園では、かわさきフェアの3つのコア会場を統括・代表する会場であり、コア会場の中で最も多くの来場者が訪れ、様々なみどりの技術を見たり、触れたりしていただくことができた。



要素事業の進捗状況及び評価指標の達成状況 【計画に記載した評価指標】

要素事業の進捗状況

基幹事業

(上段：計画、下段：実績)

単位(千円)

事業名	事業内容	計画事業費			執行額	進捗状況		
		R4	R5	R6				
A12-001	都市公園事業（富士見公園）	施設整備 11.8ha			4,948,000	4,948,000	4,495,080	完了
A12-002	都市公園事業（夢見ヶ崎公園）	施設整備			506,000	506,000	355,680	完了
小計			5,454,000			5,454,000	4,850,760	

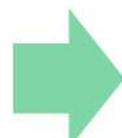
効果促進事業

C12-001	効果促進事業（富士見公園）	計画策定、会場準備等		625,000	625,000	701,540	完了
合計			6,079,000			6,079,000	5,552,300

評価指標の達成状況

指標名	当初現況値	最終目標値	実績値	目標達成状況
全国都市緑化かわさきフェアの市民認知度	5%	15%	<u>52.9%</u>	達成

※認知度は、全国都市緑化かわさきフェアを知っている人／市民アンケートの回答者 (n=2,163)



かわさきフェアが、市民の半数以上の認知度となったことは、かわさきフェアの開催により多くの市民が整備後の公園を訪れるきっかけとなるものと考えられる。

事業効果の発現状況 (来場者数・来園者数)

【計画で設定した以外の評価指標】

事業効果の発現に向けて、まずは公園のことを知つてもらい、整備後の公園に実際に足を運んでもらうことが必要であることから、来場者・来園者数を確認した。

また、アンケート結果で、みどりへの関心や身近に感じるみどりを把握することにより、事業効果の発現状況を確認した。

「全国都市緑化かわさきフェア」の来場者数

秋
R6.10.19-11.17
(30日間)

	合計	平日 (平均)	土日祝日 (平均)
富士見公園	509,000 人	8,400 人	31,700 人
等々力緑地	261,000 人	4,000 人	16,800 人
生田緑地	169,000 人	3,100 人	9,900 人
総合計	939,000 人		

春
R7.3.22-4.13
(23日間)

	合計	平日 (平均)	土日祝日 (平均)
富士見公園	206,000 人	6,800 人	12,900 人
等々力緑地	343,000 人	9,500 人	16,400 人
生田緑地	135,000 人	3,500 人	6,300 人
総合計	684,000 人		

富士見公園合計 約71.5万人

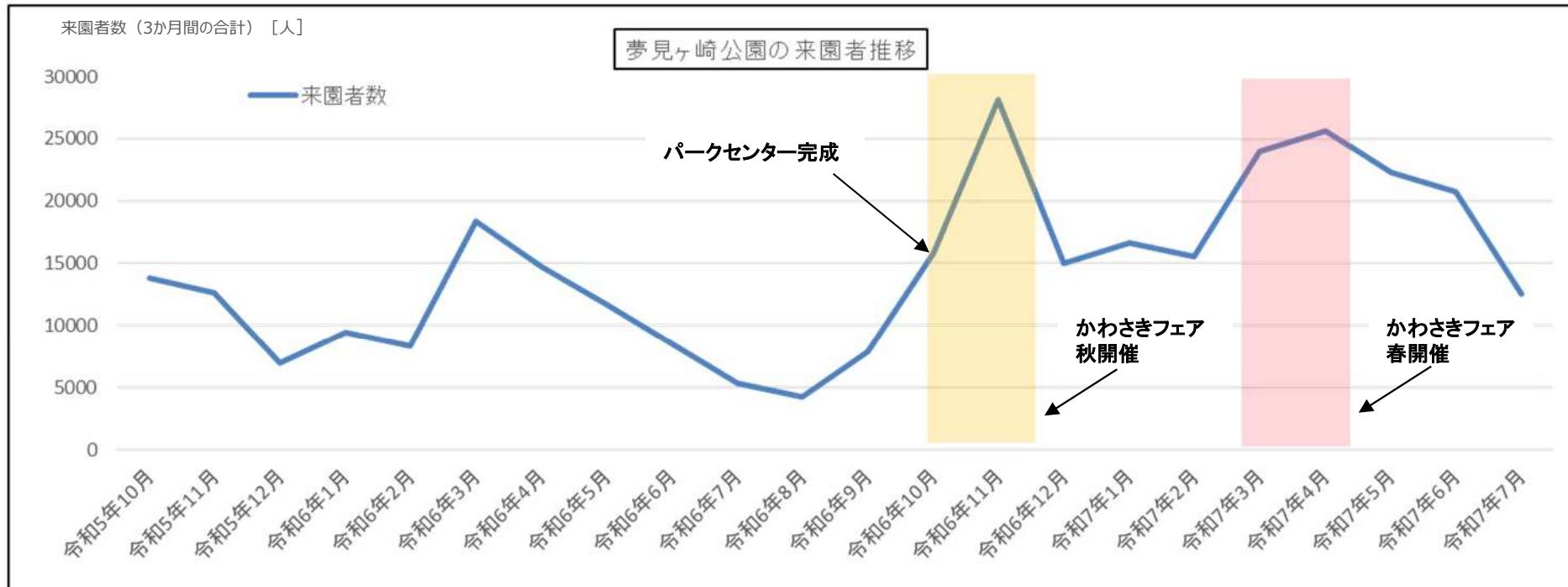
※総合計は1,000人単位、平日、土・日・祝日の平均は100人単位で四捨五入

事業効果の発現状況 (来場者数・来園者数)

【計画で設定した以外の評価指標】

「夢見ヶ崎公園」の来園者数

パークセンター整備前 (R5.10～R6.7)	パークセンター整備後 (R6.10～R7.7)	増加人数	増加率
約109,800人	約203,500人	約93,700人	185%



■アンケート項目

● 市民のみどりへの関心の程度

- ①あなたのみどりへの関心の程度について教えてください
- ②次のみどりのうち、身近に感じるものを全て選んでください

● 自由意見

全国都市緑化かわさきフェア市民アンケート調査

【実施目的】 全国都市緑化かわさきフェア開催の効果検証のため

【調査手法】 ウェブでのアンケート調査（モニター調査）

【調査対象】 川崎市民

【調査期間】 令和7年7月25日（金）及び7月26日（土）

【有効回答】 2,163件（各区309名×7区）

事業効果の発現状況（アンケート結果）

【計画で設定した以外の評価指標】

●市民のみどりへの関心の程度

【設問1】 n=2,163

あなたのみどりへの関心の程度について教えてください

項目	回答数	割合
1 関心がとても高い	142	6.6%
2 関心が高い	741	34.3%
3 関心が低い	894	41.3%
4 関心がとても低い	386	17.8%

かわさきフェアがみどりについて考えるきっかけとなった一方で、会場となった公園が生活圏から遠いことや、図書館など身近なサービスの充実の方がよいという意見が見受けられた。

とても高い・高い
40.9 %

●自由意見

＜ポジティブな意見＞

- 公園の近くに来たので参加したが花や緑が綺麗でとても良かった。
- 緑化は手間がかかる半面、育てる喜びもあります。これからも家族で活動に参加します。
- 身近に緑があるとホッとできる。
- 公園は、防災のために大事な場所です。

※ここでの“みどり”は植物だけでなく、植物を含めた生態系や、その空間、景観等も含めたものとします。

【設問2】 n=2,163 ※複数回答

次のみどりのうち、身近に感じるものを全て選んでください

項目	回答数	割合
1 公園	1,353	62.6%
2 街路樹	1,228	56.8%
3 街角の花壇	845	39.1%
4 市役所や学校など公共施設のみどり	369	17.1%
5 駅や商業施設のみどり	392	18.1%
6 寺社仏閣のみどり	553	25.6%
7 河川敷などの水辺	799	36.9%
8 丘陵地や樹林などの里山	462	21.4%
9 田畠などの農地	427	19.7%
10 その他	15	0.7%
11 特になし	353	16.3%

＜ネガティブな意見＞

- 樹木にかんしては興味がありません。
- 身近な図書館などのサービスの充実の方が嬉しい。
- 緑が多いのは良いが整備されていないと汚く見えるので難しいと思う。
- 川崎は交通・商業が発展し生活しやすいと感じているが、緑や自然が少ないことが残念

みどりへの関心が4割を超え、身近に感じるみどりとして、「公園」が一番多かったことから、魅力的な公園づくりの実施が、継続的な利用を生み、みどりに親しむ機会を増やすことにつながると考えられる。

総合的な所見

■総合的な所見

- ・富士見公園、夢見ヶ崎公園の両公園の整備により、コミュニティ形成機能や防災機能が充実したことでの、公園が持つまちの拠点としての機能をより発揮することが可能になった。
- ・また、かわさきフェアでは、市民を中心に、多くの来場者があり、様々な年代の方々が両公園に実際に足を運んだことで、暮らしの中にみどりを取り入れるきっかけとなり、みどりには様々な機能や効果があることを知つていただくことができた。
- ・かわさきフェア開催後に実施したアンケートでも花や緑そのものが持つ魅力、リラックス効果、活動したり育てたりする喜び、防災機能のために大事な場所であることを感じたとの回答があり、みどりの持つ多様な機能や効果を現場で実感してもらうことができた。また、身近に感じるみどりとして6割以上の方が「公園」と回答していることや、各広場では、親子が遊具やビオトープなどで遊んだり、多様な世代が散歩や健康づくりに利用したりするなど、子どもから大人まで様々な世代が集まり、交流が促進されていることから、地域コミュニティの拠点として機能している。
- ・基幹事業の公園整備や効果促進事業のかわさきフェア開催により、一定の事業効果が見られた一方で、みどりに関して興味・関心が低かったり、自然の少なさに言及したりする意見があつたことから、今後も、かわさきフェアをきっかけに生まれた多くの人たちとのつながりを活かし、生活圏にある身近なみどりに興味や関心を持つていただけるよう、みどりの魅力を体験するイベントの実施や協働での花かざり、新たな公園の利活用に向けた取組などを継続していく。